

# 東北大学大学院女子学生海外渡航支援事業 第3回報告書

報告者名

所属部局：東北大学大学院農学研究科

学年：博士課程後期1年

氏名：大場 歩



## 1. 渡航先

オランダ(ノードウィーケルフト)

## 2. 参加国際学会等の名称

6<sup>th</sup> International Aspergillus Meeting  
10<sup>th</sup> European Conference on Fungal Genetics

## 3. 開催期間

平成22年3月28日 ～ 平成22年4月1日

## 4. 旅行期間

平成22年3月27日 ～ 平成22年4月3日

## 5. 発表演題

6<sup>th</sup> International Aspergillus Meeting  
The transcription activator AtrR is involved in azole drug resistance by regulating the expression of ABC transporter in *Aspergillus fumigatus*  
10<sup>th</sup> European Conference on Fungal Genetics  
Up-regulation of ABC transporter genes stimulated by azole drugs dependent on the transcription activator AtrR in *Aspergillus oryzae*

## 6. 参加した国際学会等の状況並びに感想

今回参加し、発表させていただいた10<sup>th</sup> European Conference on Fungal Genetics (ECFG10)は、2年に一度行われるヨーロッパの糸状菌学会であり、6<sup>th</sup> International Aspergillus Meetingは糸状菌の中でも私が扱っているような*Aspergillus*属を対象とした研究のみのECFG10のサテライトミーティングです。今回私は麹菌*Aspergillus oryzae*と病原性真菌*Aspergillus fumigatus*の薬剤耐性に関与する転写因子に関する研究を報告しましたが、著明な先生から同じような研究をしている学生まで、想像以上に多くの方に自分の研究に興味を持っていただけ、大変励みになりました。また、女性研究者が大変多いことに驚き、オーガナイザーやチェアマンをしている姿を見て同じ女性として畏敬の念を抱きました。しかしながら、世界の大舞台で活躍する女性研究者は多いですが、今回の学会には日本人の女性研究者が残念ながらひとりもおりませんでした(日本人女子学生も私だけです)。数年後、自分がこの学会に今度は女性研究者として立ちたいと決意を新たにすると同時に、これまで以上に女子学生が世界に進出できるような環境が整えばよいと思いました。

## 7. 本事業に対する要望等

この度は大変貴重な体験をさせていただき、心より感謝を申し上げます。もしこのご支援をいただければ、今回の国際学会で発表することはできなかったでしょう。本学にこのような支援があることを、大変誇りに思います。これからも支援を続けていただき、多くの女子大学院生に世界で発表する機会を与えて下さればと思います。